金屬非常回收と土木人の自覺

原田東平

大東亞戰爭も愈々繼續決戰の段階に突入し、第一線に於ける凄慘苛烈は國內戰線に在る國民に、戰爭の身近に迫り來る重壓を自覺せしめ、民族生存戰線の容易ならざるを意識せしめつゝある。此の時戰力增强必勝體制强化の爲、內外地に於ける金屬類の回收を徹底せしむる爲、金屬回收令が改正强化された。戰爭經濟は卽ち實物經濟であつて、戰局が今日の如く、大消耗戰、大補給戰の樣相を刻々濃化具現しつゝあるとき、戰力增强に必要なる軍需生產力の增强確保を圖るは刻下の喫緊事であり、戰爭に勝拔く爲の國家の絕對なる要請でもある。戰爭に勝拔く爲には、第一線に日夜血戰死鬪を續行されて居るところの、皇軍將兵の方々に飛行機艦船、彈藥其の他銃兵器を十二分に補送し、此等軍需資材に於て瞬時も事缺く思ひを、させぬことが國內戰線に在る、銃後國民の絕對なる責務であることは論を俟たない。國內資源に乏しい皇國としては、最少の資源を以て最大の效率を發揮する軍需資材を生產せねばならぬ。其處に並々ならぬ苦心工夫が存することは勿論であつて、戰爭に勝拔く爲には戰力增强以外の何物をも犧牲にする底の、覺悟が國民に絕對必要である。此處に於て戰爭資材の主要資源たる鐵、銅、鉛其の他金屬類の確保如何は、戰爭の成果に影響するところ之程大なるはない。彼の「街の鑛脈を掘れ」は蓋し至言である。戰爭資材を早急に確保するには此の手以外には無い、純鐵分純銅分を卽座に入手し、直ちに兵器にして第一線に補送し得る、此れ程近く效果の大なるものは無い、仍て政府は全國的に金屬の回收を徹底することを國民に知らしめた。皇國が危急存亡の秋、金屬回收令の改正强化を見たるは當然なるも、國內戰線に在る國民、第一線に對し兵器廠を以て任ずる國民としては、本令强化の有無に拘はらず、持てる金屬類の供出獻納を、卒先躬行して國家に御奉公するは、將に此の秋を措いて他に其の機會があらうか、戰爭は左樣に身近に緊迫して居るのだ。從來鐵、銅の

回收に就ては、昭和十五年より漸進的に一般家庭物件、官廳公共團體の所屬物件、指定施設の物件等回收を實施せられたのであるが、國民の愛國心奉公の赤心强く、所期の數量を遙かに突破し、國內戰線の鞏固を表し得たのは欣快の限りであつた。昭和十八年度は戰爭が大消耗戰、大補給戰に移行して來たことから、金屬類の現用資源も亦、良質且つ大量のものを急速に必要とするに至つたので、戰力增强を飛躍的ならしむる爲、非常回收が斷行せらるゝことになつたのである。鐵、銅にしても良質且つ大量のものと云ふと、何うしても一般家庭の物件の如き零細なものは回收に手數を要し急場の間に合はぬ憾が多分にあるので、一般家庭用物件は此の際保有して、最後に備へる方が得策である。斯くするときは、次の段階に於ける回收に方り、國民の戰爭意識は昂揚せられより效果的であるからである。とすると此際如何なるものを對象として回收するのが效果的かと云ふと、直接戰力の增强に、又生產力擴充に影響の無いものと云ふことに限定され、從つて其の以外からと云ふことになる。此處に於て政府は戰力增强企業整備を斷行して、設備の操業、保有、轉用、廢止を强力且つ迅速に行ひ金屬類の大量回收を實施することになつたことは、周知の通である。斯の企業整備に依る回收は各方面共着々計畫に基き速に實施されることになつて居るので、金屬類の回收も此れに併行して回收することになるので問題は無いが、企業整備に關係の無い國、都道府縣、市町村等公共團體の施設特に土木施設に使用して居るところの金屬類の供出が必然的に問題になつて來るのでは無いかと思ふ。否土木人は問題化するを俟たず善處すべき事柄ではないかと思ふのである。

○

然らば土木施設に使用されて居る金屬の中何が回收の對象となるかと云ふと、回收令にも明記されて居る、橋梁及橋梁の附屬金物は勿論、堰堤の附屬金物、上下水道の附屬金物、河川、港灣等の施設、工作物に使用して既に其の使用目的の用を爲さゞるに至りたるもの等が其の對象と爲ることゝ思はれる。

此の金屬の回收と關聯して輸送力就中鐵道輸送力の擴大强化と云ふことが戰力增强と密接なる關係上當然問題となるので、駄文の樣ではあるが土木人の協力を求むると云ふ意味に於て一言したいと思ふ。即ち刻下の戰局が何の部面に於ても大消耗戰、大補給戰である以上、國內戰線活動上動脈幹線たる鐵道輸送陣營も亦戰力增强躍進の爲、五重點產業を初め直接戰力に關係ある軍需產業の生產資材、食糧、兵器の輸送等鐵道輸送は全機能を最大限に發揚して瞬時も輸送動脈を停滯せしめてはならないのである。然るに現下の鐵道輸送は其の頂點に到達して居る否飽和點に達して居ると云ふも過言では無い。而して其の輸送の現狀は今以て平時輸送の域を脫去し切れない樣に見受けられるのは甚だ遺憾である。

輸送力增强、輸送隘路打開を呼號されては居るが一向是正の跡が表はれて來ない、之は鐵道が戰時型に切替つて居ない證左ではないかと思はれる、斯樣な狀態を今後も持續するものとせば重要物資輸送上由々敷問題であると思ふ。鐵道は速に戰時型輸送を强化し極度に不要不急の輸送を抑制せねば輸送效果が顯現されないのみならず、老死の一途を辿り動脈硬化を連想せしめられ寒心に堪へない、須らく鐵道當局は國民に戰時非常輸送に對する絕對協力を斷乎要求し國民も亦之に卽應して旅行は固より荷物の託送迄も中止すべきである、ところが鐵道當局は斷の字を忘却したかの樣に輸送力低下の素因を鐵道自身が培養して居る形となつて居る、其の例として昨今或部分の列車の遲發、延着は普通のことになつて、多年國鐵が三呎六吋の狹軌で時間が正確だと云ふことを一枚看板にして來て居ながら時間の不正確は益々甚しい、此れは唯狹軌を以て時間の正確のみを誇りとし、輸送量を考慮外にして來たことが原因を爲して居るのでは無いかと疑はれる。非常時輸送に直面し國內鐵道幹線の中、東海、山陽の所謂表日本を縱走するもの丶外、他は概ね神經痛的單線輸送を以て、此の戰時非常輸送を乘切らうとする惱みを多分に持つ國鐵としては、大量輸送の捌きに付三思三考せねばならぬこと丶思ふ。筆者の再三唱導して來たところであるが、直接戰力に關係否障碍を來す一般國民の不要不急の旅行は絕對禁止すべきである。此の虛弱鐵道輸送に對し道路輸送、河川輸送、近海輸送が大きく評價され、利用されて然るべき時に悲しいかな、工作機械工業の立遲れより、此の道路、此の河海を、最高度に利用すべきときに利用出來ぬ誠に勿體ないことだ、卽ち利用機關たる自動車機械船の數量は、燃料の關係もあり激減して來て居る。反對に各種資材の輸送量は全國普遍的に、幾何級數的に大增量して居る。此の如き狀態は重要資材物資輸送の行詰りに、拍車をかけること丶なり、益々輸送隘路打開を困難ならしめて居る。一國の機能も亦何等人體と異ることが無い、健體敢闘を持續するには何うしても、國內輸送動脈たる國鐵の輸送力を、戰時型に切替增强せねばならぬ、夫れが爲には戰爭資材確保と併行して、鐵道の單線幹線の復線化を急行する爲、閉線の除去を徹底すると共に所要資材の確保を圖ること が先決問題である。半身不隨では戰爭に勝てぬ。

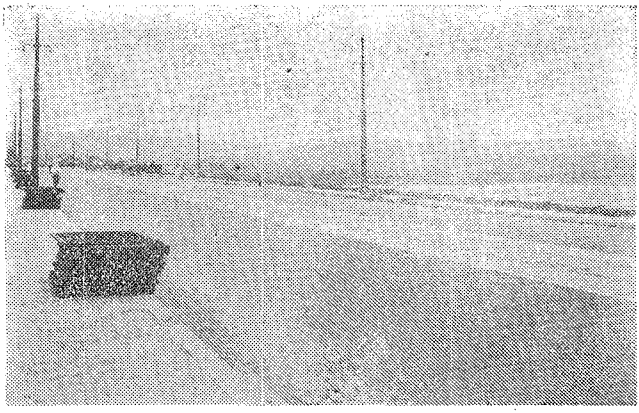
○

戰爭資材も充分に賄ひ、鐵道復線化資材も出すとなると、鐵の需要が增加することは當然であるが、戰爭完遂に絕對要件たる健康體保持の爲には、他のものは犧牲にするも亦已むを得ないことは國民の既に覺悟して居るところである。

○

土木施設に付ては戰時規格が設定され、實施を見て居る今日全國の國道、府縣道、市町村道に架設してある鋼鐵橋並に橋梁の欄干

附屬設備、照明金物を初め、既往に於て河川工事に使用せるところの水制用川鐵製（古軌條）川倉、商漁港修築工事に使用せる埋殺し鐵矢板等現下の鐵資源回收に當り手近く大量に回收し得る好對象物件たることは疑ない、斯く土木施設に使用しある鐵物件の、供出を强調するからと云つて、決して道路輸送を輕視した譯では無い、道路と云ひ鐵道と云ふも同じく陸上輸送の重任に於て兩輪の關係にある。從つて鐵道輸送力の擴大强化を焦眉の急務とする現在全面的に此れを援助速成せしむるは喫緊の要事である。尙空爆による鐵道の破壞は、一時たりとも重要資材の輸送を停止せられ戰力增强に至大なる影響を齎すことゝなり、其の間道路輸送に切替へねばならぬが、道路輸送は戸口輸送に利便たるに反し、重量巨大物資の大量輸送は到底至難である、とすると鐵道輸送に先づ重點を置かなければならない、此の鐵道輸送力を飽迄確保する爲には、鐵材を相當準備しなければならぬ、國內戰線を鞏固にし健全なる活動を爲さんが爲には、輸送隘路打開、克服が先決問題である。此れが爲には各方面共集中協力してこそ大東亞戰爭を勝拔くことが出來るのだ。



國道一一號線富山大橋撤去開始七月十八日所要日數一週間

其處で道路輸送の問題であるが、自動車が多數に燃料が圓滑に行くときならば、戸口から戸口に運搬し得る道路輸送が如何程利便であり、時間的に經濟であるか其の效果は測り知れぬものがあるが、車輛の減少、修理用資材の入手難、燃料の規制等より此れ等戸口輸送利器は充分其の機能を發揮し得ざる狀態にある。斯る場合道路特に使用されて居るところの附屬金物は目下の輸送重量の荷重に耐へ得る最少限度の構造材を殘し、又欄干等に於ても最危險箇所を除き全部此れを撤去し、軍務の資材に又道路輸送の面をも一部肩替りせる鐵道の保持、複線化に率先協力してこそ非常時道路行政の眞髓を發揮したるものと稱することが出來ると思ふ。右と同時に河川改修當時必要とせる工作物にして、今日に於ては其の使用目的の用を爲さゞるもの又港灣修築工事例へば護岸

の一時根固めに使用したる鐵矢板、埋立地造成に使用したる埋殺し鐵矢板も同樣此の際斷然引拔き金屬回收に應召すべきであると思ふ。撤去すれば困る所もあらう、然し大したことはないと思ふが何かあると困ると云ふ、所謂一の失敗を顧慮するの餘り百千の效果を滅殺する樣なことは戰爭完遂を目指す今日絕對避けねばならぬ、皆精神の持ち樣性根の据へ方にあると思ふ。上述の如く今直ちに供出し得る土木施設の金屬類は、全國を通じるならば莫大な數量に上ることゝ思はれる、何事も勝つ爲だ土木人は低身窮行して自己の持場々々たる道路、河川、港灣、海岸、上下水道其の他土木施設に付供出し得べき金屬を念査發見して、金屬資源の確保に協力してこそ皇國土木人であると思ふ。

○

空襲は必至である、國土防衞は夫れこそ一億總力で當らなければならぬ、國防國家建設と云ふが今日では攻防國家である敵襲を待つては居られぬ、全國土が兵器とならねばならぬ秋だ國民が目に戰鬪を見て初めて戰局の急迫を識る樣では勝敗は知れきつて居る、前節に於ては直ちに撤去し易きものに付即時發見供出し協力すべきことを强調したのであるが、戰爭が今後益々大消耗戰の連續となることは必定であり、從つて金屬資源の需給も益々增大せらるゝことも當然である。

此處で土木人の一大勇猛果斷を切望するのは道路の鋼鐵橋にして重要物資輸送に障碍と爲らざる箇所に架設しあるものを撤去解體して良質鐵資源の確保を圖ることも刻下の急務であるゝ 斯樣に云ふと土木文化に對し反逆兒の如く見えるかも知れぬが、何度も云ふ通り戰爭は苛烈である、敵米英は緒戰のフラ〳〵狀態より通常の姿に立直つたのだ一人前の男と男の決戰である、此の未曾有の大戰爭に勝つて初めて飛躍文化の建設に土木は全力を擧げて振揮興隆すべきだ、今は骨が舍利になつても敵の息の根を斷ち切ることが先決問題である、又一部道路橋のみならず凡ゆる土木施設に附屬して居るところの鐵初め銅其の他の金屬類は其の構造物が最少限度必要とする限度に於て撤去、解體、破碎し從て此れを國家の要請する金屬回收に即應供出すべきであると思ふ。

○

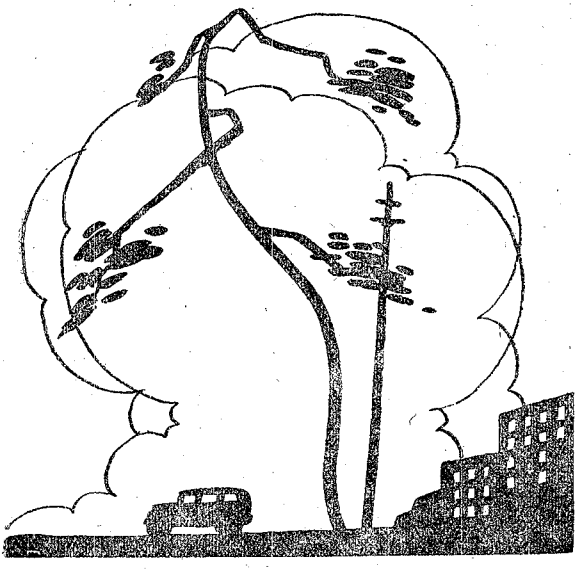
斯の如く國內の土木施設に使用又は附屬する金屬類の回收を其の構造物が必要とする限度に於て撤去するに當り其の代替施設も必要とする場合、即ち橋梁の如きは撤去前に假橋の架設を必要とするは勿論であるが、此の代替施設たる假橋を架設するにしても木材が大量に軍需として又造船用として必須缺くべからざる資材である關係上、長尺物の入手は極めて困難なことゝ思はれる、其處で戰時規格に依る最少限度の施設を以て代替することゝなるが、此處で單に代替施設を計畫設計するのみでは平時の災害に處する應急措置と何等異るところが無い、從つて戰時技術の躍進と

云ふことが一向期待に副はないことになる、既設の鋼鐵橋を、戰力增强の爲に撤去するものならば、代替施設も亦戰爭勝狀型のものたらしめなければ、攻防國家運營上意味を爲さないことゝ思ふ、即ち道路橋を初め凡ゆる土木施設は必らず空襲の對象となることは自明の理なるを以て、其の代替施設と雖も爆失即生の工夫を持つたところの、所謂戰時型を創意に依り工夫現出しなければならぬと思ふ、夫れには土木人は非常の苦心研究を要することゝ思はれるが、斯く加重する困難を克服してこそ土木技術の飛躍的向上を促進し皇國工業を世界に冠たらしめることも容易であることと思ふ、土木人は空襲に依る被害の爲一時たりとも國土運營上麻痺狀態をせしめたり、或は半身不隨狀態を持續せしめてはならぬ、代替資材の希望量入手を到底望み得ぬ今日に於ては、道路、橋梁、上下水道、發電用堰堤、河川、港灣等の構造物は强度に防禦せねばならぬが、一度空爆を享けたる場合直ちに修理運營を爲し得る樣代替工法に付眞劍なる創意工夫を要する秋であると思ふ、攻防國家運營確保に土木人の奮起を御願する次第である。

戰力增强金屬回收に對し土木面の率先協力を最も必要とすることを縷說したるも總力戰である以上、單に土木面のみならず國內各部面に於ても衷心協力すべきことは勿論である。

○

大體國內戰線にある一般の戰爭觀、敢鬪精神に於て緒戰の大戰果より敵米英の國民より大東亞戰爭に對する認識と云ふか覺悟と云ふか眞劍さに於て立遲れをしては居ないかを思はしめられるものがある、即ち敵米英は眞珠灣の大敗、南方諸地域に於ける大敗北を大東亞戰爭緒戰に於て味ひ、苦汁以上のものを喫せしめられて以後頭部打撲傷の治癒を待ちつゝ漸次本然の姿に立還りつゝある。此の意識回復と同時に彼等は生來の野獸性を遺憾なく發揮し、先づ手强き皇國日本に對しては地形上の關係もあらうか又考ふところあつてか、獨逸、伊太利を盲爆しだした彼等野獸の云ふカーペット爆擊の爲ハンブルグ、ミラノ兩市は殆んど灰燼に歸し又廢墟に歸したとか、新聞紙は彼等野獸の目的は人的資源減滅にあることの注意を喚起して居る、然るに現在皇國民の一般は一部少數者を除き米英の反擊空襲を本當に考へて居る者が幾何であらうか、空襲必至を呼號され再三眞劍なる注意を喚起されて空襲があると覺悟しつゝ未だ心の奥底に樂觀氣分が潛在して居る如く見受けられるのは如何なることであらうか、此れ緒戰の大勝に依り精神的立遲れの證左と見て過言であらうか、誠に寒心に堪へないものがある、よく云へば大國民の襟度と云へるかも知れぬが戰爭完遂精神に於て彼等野獸に立遲れては、第一線に血戰死鬪せられつつある將兵の精神力だけでは絶對に戰爭に勝てぬことを考へたことがあるだらうか、國內戰線にある者も戰鬪意識を振起して赤心熱丸となつて第一線と共に敵に總當りを喰はせなければ戰爭に

は絶對に勝てぬ、敵米國は合衆國であつて各種の民族が寄り集つた集團國であるから、戰爭に對する國内の意見も必ずしも一致して居らぬとか、單に炭鑛罷業のみを見て敵は早くも厭戰氣分が崩したとか敵國内の崩壞を萬一にも僥倖して居る樣なことがあるものとするならば、其の者は皇國民ではない、敵米英の廻し者と云ふも過言ではない。もつと敵米英國民の戰爭意識と云ふか反擊體制をハツキリと國民に知らしめ、國民をして自ら挺身戰力增强に精神力の昂揚に努力せしむる樣指導すべきだと思ふ、夫れには敵米英の日本反擊精神の狂的獸的に熾烈さを加へ執拗に喰ひ下つて來て居る實狀とか或程度の敵生產力を報道し以て國内戰線にある國民の眞劍なる戰鬪精神を促進昂揚すべきだと思ふ、夫れには米の生產力のみを報道するに止まらず大東亞戰爭に關する限り、米と隣接する英領加奈陀の生產力をも米に加算して其の尨大なる物資力に對處し擊滅する覺悟を早急に徹底せしめ、緒戰以來の弛緩せる戰爭遂行精神を一層振起引緊め、敵が物をたのんで來るならば我は物と精神力に物云はせて彼等獸を此の地表から抹殺せなければならぬ。敵米は從前より勞力節減を極度に圖り能ふ限り機械力を利用することに全力を傾注して來て居るが、戰爭開始以來愈々其の傾向が著增されて來て居る、其の機械萬能女子男卑の敵米が女子の勞務動員を決行し、軍隊に迄女子を使用するに至つて居る。此れは人的不足と表面解釋して居られぬ、彼等は斯樣に反擊

意欲が强いのだ、何事にも世界一を取返したいのだ、皇國民は之れに對し萬古不拔の日本精神を以て彼等の物戰を怖れず我は物資力に精神こめて敵米英に打勝たねばならぬ、何事の礎とも根基ともなる土木人よ、此の大補給戰の完勝に、一億總進軍の先頭に實踐垂範して頂きたい。（八月三十一日之を記す）